

日 本 大 学

校 友 会 報

発 行
 日本大学通信教育部校友会
 徳 島 県 支 部
 〒772-0051
 鳴門市鳴門町高島字中島220
 土 井 栄 次
 TEL 088 - 687 - 3403

平成27年度通信教育部校友会 徳島県支部総会報告

平 平成27年11月3日(火)
 徳島市(阿波観光ホテル)

において、平成27年度日本大学
 通信教育部徳島県支部総会を開
 催いたしました。

総会の議題は次のとおりでした。

- (1) 平成26年度事業報告および
決算報告
 - (2) 会計監査報告
 - (3) 平成27年度事業計画(案)
および予算(案) 審議
 - (4) 第44回定期総会の報告につ
いて
 - (5) 四国ブロック総会について
 - (6) その他
- 1号議案については、支部長
 から報告いたしました。2号議
 案については、出席者全員の監
 査を受け、適正に執行されてい
 るとの承認を得ました。

3号議案についても原案とお
 り全員一致で承認されました。

1号・3号議案の内容につい
 ては、別表に記載のとおりです。

4号議案については、土井支
 部長から報告がありました
 (土井)

会費納入のお願い

校友の皆様への会費によ
 り細々と徳島県支部を続
 けています。
 会費の主な使途は、会
 報の印刷費と郵送料です。
 会費納入率の向上によ
 り、各種事業が実施され、
 日大通教校友会が徳島県
 でも注目を浴びるよう願っ
 ています。
 会費は、同封の「振込
 取扱票表」に卒業年次、
 住所、氏名を記入の上、
 千五百円を添えて郵便局
 に提出して下さい。
 なお、手数料七十円は
 校友がご負担願います。

平成26年度事業報告書

年月日	主な事業・行事	場所	備考
26. 5. 24	第43回定期総会	東京都	
26. 5. 20	役員会	徳島市	会報編集会議
26. 7. 27	平成26年度支部総会	徳島市	5名出席
26. 7. 27	オール日大総会	徳島市	5名出席
26. 9. 1	徳島県支部会報36号発行		120部印刷
26. 11. 13	四国ブロック総会	善通寺市	14名出席

平成26年度決算報告書 (単位:円)

収入の部		支出の部	
項目	金額	項目	金額
前年度繰越金	338,091	校友会本部役員会費補助	40,000
会費(24名)	36,000	会報印刷費	10,368
本部補助金	40,973	会報等郵送料	12,660
雑収入	0	四国ブロック総会補助	20,000
貯金利子	69	佐々木顧問へのお見舞い	2,052
合計	415,133	次年度繰越金	330,053
		合計	415,133

平成27年度事業計画書

平成27年度予算書 (単位:円)

年月日	主な事業・行事	場所	備考	収入の部		支出の部	
				項目	金額	項目	金額
27. 5. 23	第44回校友会定期総会	東京都					
9. 3	四国ブロック総会	松山市		前年度繰越金	330,053	印刷費	15,000
11. 3	オール日大総会	徳島市		会費(25名)	37,500	郵送料金等	15,000
11. 3	徳島県支部総会	徳島市		本部補助金	35,000	定期・四国総 会参加補助	50,000
11. 10	会報編集会議	徳島市				校友会本部 役員会費補助	20,000
11. 25	日大通教校友会会報郵送		100部	雑収入	0	消耗品費	5,000
12. 1	徳島県支部会報37号発行		100部	貯金利子	50	予備費	297,603
28. 1上旬	新年会	徳島市		合計	402,603	合計	402,603
28. 1上旬	徳島県支部会報37号郵送 日大通教校友会会報郵送		100部				

頭を高く上げ希望の波をとらえる限り
 80歳であろうと人は青春の中にいる

サムエル・ウルマン 青春の詩より

母の遺作展に思いをはせて

昭和43年経済学部卒

西村 徳子

展示会場

ホテル千秋閣パブリックギャラリー

展示期間

第1回 平成27年5月10日(日)～5月13日(水)
第2回 平成27年8月1日(土)～8月9日(日)

展示物

第1回 60歳代後半から90歳代前半作
押絵、木目込み人形、ちぎり絵、3-D(立体絵)、てまり、ピー

タッチアート、刺しゅうアート、藤アート、スケッチブック、折り紙、ぬり絵、等73点

第2回 作品を入れ変えて
押絵、木目込み人形、ちぎり絵、てまり、モザイクアート、3-D

(立体絵)、ピータッチアート、藤アート、押し花、リアンアート、パッチワーク、折り紙、ぬり絵、スケッチブック等104点

遺作展を開催したきつかけ

①2階から母が呼ぶので上がって行く箱に入れた額数ヶを紐でくくって、「結ぶんが出来ないので結んでほしい」、ひと呼

吸して「もう二度と見ることがないから」とポツリと言ったが結んだだけで何も言わずにすぐ階下へ降りてしまった、すでに他の作品、道具類すべてきれいに片付けてありその時の光景が

忘れられなかった。遺作展の準備する頃になって、最期の紐を自分で結ぶのが忍びがたかったのかなと思いをめぐらせました。②数年前寝たきり(車椅子では動ける状態になったとき「銀行のロビーで作品の展示会するからね」と言いつつもめんどうくさくなつて何もしてあげなかったが、これ以上世話をかけてはいけないと遠慮していたのか最後まで展示会のことを言い出さなかった。

③押絵の習い始め頃出来上がった作品を持ち帰り「これ作って来た」と笑顔で見せてくれたが「そんな昔の浮世絵みたいな好看」とけなした為、それ以来見せる事なくほとんど作品をダンボール箱やビニール袋に入れ2階にしまつてあつた、ある日洋服を着た現代風人形の作品を「あなたに作って来たよ」と喜んで見せてくれたが内心やはり押絵は昔風が良く西洋的な作風はもうひとつであつたので浮かぬ顔をして受け取らなかつた。いつの間にか母はステレンスの額に入れ2階の作業部屋にずっと飾ってありました。でも母の思いが詰まったこの作品を今回の遺作展に出品しなかつたのです。出品する気になれなかつたのです。

遺作展を終えて

展示会に来て下さった何人もの知人から「お母さんは徳子さんに叱られるから隠れてしよつたんじよ」と聞かされ、押絵の先生からも「家でしたら徳子さんに叱られるし、途中の作品は夜中でも起きてしたいぐらいの気持であつたので皆さん(3・4名ぐらいの個人教室)がおしやべりしていても一人モクモクと作業していた。又母が初めての生徒だつたよ」と遺作展で聞き知りました。木目込みの先生からも「神山まで熱心にけいこに来てたよ」と聞かされ又チャリテイバザーに、木目込み人形、3-D(立体絵)と多数出品してた事今日始めて知りました。色々な分野で一所懸命作業に打ち込んでいた事が分かりました。遺作展を2人の弟と協力し開催出来た事少しは母親孝行出来たかなと感謝しています。



90歳から94歳8ヶ月までイサービスでつくったピータッチアート、パファイアート、モザイクアート、ピースアート、ひな人形、クリスマスツリー、折り紙、絵手紙、ぬり絵、干支の置物、その他種作品数えた事がないが150点以上人形ケース、棚の上、箱の中等にあ

土地家屋調査士業40年間をふり返って

昭和47年・文理学部卒 山本 守

昭和50年に開業して満40年。「土地家屋調査士業を振り返って」と題して日大OB会通教47年卒です。この様な業界に入りました。業界のPRも兼ねて寄稿します。

あるのでいつか整理して遺作展を開催してあげられたら良いかなと思います。山本ご夫妻がご覧になり校友会の方々に連絡して下さり暑い中次々と御高覧下さりありがとうございます。

回顧しますと、県土地家屋調査士会館建設、公嘱協会(官公署の業務を専門にする会社)設立、不動産登記法14条1項地図作成作業、ADRセンター設立(裁判外紛争解決制度に基づく徳島の相談所)、筆界特定制度(筆界線が不明のとき登記官が決める)への協力、資金敏明先生(検事、判事、東京法務局長、最高検察庁検事退官、境界の理論と実務の日本第一人者)の招聘、認定土地家屋調査士研修、登記業務のコンピュータ化、等々全身全脳を傾注して頑張ってきたつもりではありますが、今は縁側でひな

開業当時を振り返りますと、一番に思い浮かぶのが土地家屋調査士清水公一先生です。資格は取得したものの実務がいまいち、昭和52年10月1日「表示登記事務取扱要領」が実施されて安心感を覚えたことが記憶に新しいです。最初は平板とテープで測量に、その後トランシット、セオドライトの測量機に代わり、野帳記録装置内蔵が当たり前の時代になりました。作図は規定三角スケールからパソコンの時代に。境界立会は、開業時は境界線確認について所有者の指示が信頼出来るか否かにかかっていましたが、多くは経験則による判断が大事でありました。

清水先生の事務所実務を教わりに行っていた頃、先生の事務所にはタイガー機械式計算機や電子計算機(真空管式)がありました。清水先生の地積測量図は正確でした。元は機械屋さんですから「製缶三步治具万分の一」の言葉どおり、現場での草刈り、垂直の立て方、測量方法その他たくさん学びました。昭和53年6月発行「公図の年輪」土地家屋調査士塚田利和先生の本をいち早く購入し、大阪には調査士用ソフト会社「ジエック」があると聞き、徳島で一番に購入しました。

かけです。65才で皆さんと伴に社員として活躍させて頂きました「公嘱協会」を退職させて頂きました。現在69才、事務所の看板をいつ下ろす(廃業)か悩みました。多くの方の意見をいろんな書籍もあさりました。わかった結論は、自分の個性(思考)で決めないことのようにです。社会が決めてくれるようです。業務だけではありません。町内のコミュニティ、スポーツ仲間、奉仕活動等々、必要なくなったら声をかけてくれなくなります。その時が潮時と考えることにしました。自然に解決してくれました。

開業時報酬は定額料金(法務大臣認可制)であったため、難題な事案でお困りの方や表題登記を急ぐ方いらっしゃいとキャッチフレーズで始めました。初からどんどん業務が有り個人事業税を納めていました。時はオイルショック後で、地価の倍々ゲームが終わり比較的落ち着いていて、その後10数年は緩やかに上昇を続けました。

女房いわく、「仕事いつやめてもいいけど家におらんといて」このことは年金基金のおかげなのです。結婚45周年何というお言葉、これも人生か。男この道一筋、蓄積したノウハウを社会に還元してお役に立たなければと、老体になりましたが健康である限り頑張ることにしました。

私の三月の予定は日、月曜日原則として室でいます。十六日、十九日は徳大で検査受診で他の曜日は中島田町三丁目虹の橋「デイケアすずらん」で九時から十五時四十分頃までいます。毎日夕食後の十七時三十分以後は室内でテレビを見たり、徳島県の古代史関係の資料を読んですごしています。日本の国、天皇家の始まりは阿波からで大変おもしろいですが高齢のため読んでもすぐ忘れてしまいます。またお会いできますことを楽しみにしています。どうも有難うございました。

先日はわざわざお見舞いにお越し下さいましてどうも有難うございました。厚くお礼申し上げます。

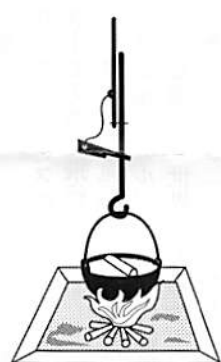
昼食前で食堂に居ましたので室へ帰らず降りて行きまして、施設の設定等、見学してもらえず、お茶も出さず話ばかりして失礼致しました。その時原稿依頼の話がありましたが高齢のためうまく書けません。悪しからず。

土井 榮次様
佐々木由信

近況報告
昭和三十九年法・昭和四十一年文昭理・昭和四十四年経済卒
佐々木由信

平成27年度 四国ブロック総会報告
徳島県副支部長 小濱綾子

平成27年度四国ブロック総会
は、9月6日に道後プリンスホテルで開催されました。
本部から白戸会長、近プロ、中プロ、香川、高知各1、愛媛7、徳島から土井会長と小濱、総勢14名の参加でした。
会議は、形通りに進行しましたが、自己紹介で、それぞれが
マチュピチユ(ペルー)とイグアスの滝(ブラジル) 二週間の旅行日記(その2) 昭47年・文理学部卒 土井 榮次
《第八日目》 ナスカの地上絵 遊覧飛行
ペルー南部に広がる大平原に、1~6世紀頃、高度な数学知識を持った文明が描いたとされるが、700以上にも及ぶ地上絵を、誰が何の目的で描いたかはいまだに謎となっているようだ。
セスナに乗るのにバランスをとるため、一人一人体重を量り、座席番号が決まる。
14人乗りで、1時間ほど飛行
日大通教に入学するまで、また卒業してからの人生を語ってくれました。大変な苦勞と努力が有っただろうと想像されました。それを乗り越えてこられたからこそ、みんな若々しく生き生きしておられるのだと感動しました。快い刺激を受けました。



戦で、ワイドビューのテレビがある、ホテルのバーラウンジは観戦者で超満員だった。

世界中からの観光客が来ているリゾートホテルだったが、ユニホーム姿のアルゼンチン人は勝利が決まると誰かまわず抱き合い、私も抱きつかれ、他の観客も拍手して大騒ぎだった。そのため、太平洋に沈む夕日を見届けることが出来ず、喜び一杯のアルゼンチン人と一緒に写真を撮っているとは海は夕闇になっていた。

〔第9日目〕バジュスタス島のボートクルーズリマ

二時間のクルーズで、いつ、誰が書いたのか全く不明の「燭台」模様の地上絵を、海上から見学。また、アシカ、フンボルトペンギン、大小の鳥たちが住んでいる無人島をクルージングしながら見学。

リマまで戻るのが4時間、バスの長旅の後、翌朝イグアス(ブラジル) 行きのため、空港に隣接のホテルに宿泊。

夕食後、妻は空港でマッサージュを受けてスッキリした顔で戻ってきた。

〔第10日目〕ペルーイグアス(ブラジル)

3800mの高地にあるチチカカ湖や雪のアンデス山脈を眼下に、4時間の空の旅を経て、ブラジルのイグアス空港に到着、国立公園の中に入り、イグアスの滝が目の前にあるホテルに到着した。夕食後は、近くの展望台まで散策した。

〔第11日目〕アルゼンチン側からのイグアスの滝・ヘリコプターでの遊覧飛行

イグアスの滝(275の滝の数)は、ブラジルとアルゼンチンの国境にある滝で、世界三大瀑布一つである。あと二つは、カナダ・アメリカにまたがるナイアガラの滝(水の落下の高さ)とアフリカのビクトリアの滝(川幅)である。

遊歩道や展望台が整備されていて、あちらこちらの滝に虹がかかっているとても綺麗だった。また、国立公園の中にあり、熱帯の動物・花・蝶の宝庫、アナグマが人間に近づいて食べ物をおねだっていた。

ただ、残念だったのは、6月上旬の大豪雨で、「悪魔のど窟」に行く橋が流れ、滝の真上から、轟音を聞きながら滝を見下ろすイグアスの滝のハイライトを見ることができなかった。

午後からのアクティビティ、5人乗りの小型ヘリコプターで滝を360度上空からの遊覧は、ヘリコプターの遭難が脳裏によぎり、私はパスし、怖いもの知らずの妻のみ搭乗し、私は、写真を見ただけだった。

夕食後は、満月で月に照らされる滝を見学するルナツアーに出かけた。滝の飛沫に月明かりが反射され、夜の虹はブラジル最後の夜に相応しく、とても幻想的だった。

〔第12日目〕ブラジル側イグアスの滝見物とボートツアー

展望所では、飛沫が大粒の雨や霧のように飛ぶので、レインコートを着て、ホテルの目の前の滝から順に巡った。目の前でゴオーゴオー流れ落ちる滝は、さすがに三大瀑布と言われるだけあって迫力十分でした。イグアス川ボートツアーは、事前に、濡れても良い服装で参加するようにとの説明を受けていたので、レインコートの下に水着の者、登山の時のような服装の者、そして全員、目にゴーグル、足元はビーチサンダルでした。もちろんカメラは防水仕様。滝壺に突入するボートツアーは、20人乗り位の小型ボートで、落下の水量が比較的少ない滝壺を選び突入、乗船者全員が「アンコール!アンコール!」と叫べば、船長は面白がって何度も滝壺に突入してくれた。完全武装したつもりが、全身びしょ濡れとなり、水着姿で乗船するのが大正解だった。

ホテルの部屋でシャワータイムの後スッキリしてから、今回の旅行最後の食事はイグアスの滝が見えるレストランだった。昼食後は休憩後、夕刻、イグアス空港から帰国の途についた。途中の土産店でブラジルの留学生に依頼されたブラジルサッカーチームのゴールキーパーのユニホームを探したが、個人選手のユニホームは8番のネイマール一色で、購入を諦めた。それにしてもFIFA公認ユニホームは約2万円、観戦の入場料も数千円とかで、一般の庶民にはとてもついていけない。サッカーより「医療・福・教育を!」というデモが多発するのもガッテン!ガッテン!

〔第13日目〕第14日目〕空路24時間の帰国の旅路
イグアス空港より4時間20分、乗り継ぎ時間3時間20分、リマよりロスアンゼルス8時間40分、乗り継ぎ時間5時間35分を経て、ロスアンゼルスより成田まで11時間10分、正味29時間55分を要した。
イグアス空港では、またまた、オンタイムでワールドカップ決勝・ドイツvsアルゼンチンの対決が見られた。開催期間にブラジルに滞在しているから見ることができ、ゲームセットでドイツが勝利したときは、ため息がほとんどだった。パラパラながら拍手が沸き起こり、さすがに世界遺産、ヨーロッパの人々がイグアスの滝に観光に来ているのだなと実感した。
帰路は疲れのためか、ビールやワインを飲んで横になり、ブームを起している「アナと雪の女王」などの映画鑑賞しながらとうとう横になっているうちに、思ったより早く7月15日の16時55分に成田に到着した。
徳島行きの最終フライトに間に合わない、東京で久しぶりの大浴場と日本食で日本の良さを実感した。
翌日、15日ぶりに徳島の我が家に無事到着した。マチュピチュ宿泊時に、台風接近のテレビニュースを見て、台風のための船の係留準備を友人に依頼したが、風雨が少なく無事だったので、安心した。また、スイカ等家庭菜園の水やりを留学生に頼んでいたが、旅行期間中は、幸いにも雨が多くの野菜は良く育っていた。
今回の旅は、高山病や旅行の最中の病気を心配していたが、幸いにも時差ボケ程度に終わり、早くも次の旅行を夢見ている。
ただ、最初にも記したが、遠い場所へ旅行する時は、一歳でも若い年齢で行くべきと、つくづく思いました。
そして、これから南米方面に旅行される方の参考になればと、旅行記を書かせていただきました。

編集後記

古稀の同窓会を成功させて、やれやれと思った途端に老化現象が次々と現れた。眼、歯、不整脈と、特に眼の網膜剥離は、重傷で手術で大変であった。70歳以上の70%の人が何らかの眼の病気になるといわれている。さて、校友会の灯火を消さないよう10年間頑張ってきたが、自分の命の灯火とどちらか消さないよう・健康第一で頑張りたい。
(土井)